

西表島森林生態系保護地域のエリア別見直し案

番号	エリア	区分	評価	現在の区分	見直し案
	古見岳一帯	主要山地	<ul style="list-style-type: none"> 古見岳は島内最高峰である。古見岳一帯は原生的な天然林で、スダジイ、アカメイヌビワ等からなる常緑広葉樹林である。 古見岳一帯は雲霧帯で、着生植物等環境の変化に敏感な植物相がよく発達している。 国内希少野生動植物種であるイリオモテヤマネコ、カンムリワシ、アカヒゲ等のほか、リュウキュウチクを食草とするアサヒナキマダラセセリ等の希少な昆虫類も生息している。 	保全利用地区	保存地区
	後良川、相良川、ユチン川及び大見謝川一帯	中小河川	<ul style="list-style-type: none"> 既設の保全利用地区と同等の林齢で 140 年生を越えている。 古見岳等の原生的な天然林を源流とし、渓流帯には狭葉現象の見られるリュウキュウツワブキをはじめ、希少な昆虫類やラン類も生息・生育している。 後良川、相良川、ユチン川にはマングローブ林が発達している。また、後良川のマングローブ林には、国や沖縄県の RDB に記載されている甲殻類や底生動物が多数生息している。 下流域では、広くイリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	上流域のみ保全利用地区	<ul style="list-style-type: none"> 上流域（イノシシ猟が行われている箇所等を除き）保存地区 中下流域（イノシシ猟が行われる箇所等は）保全利用地区
	テドウ山、波照間森、御座岳及び浦内川中流域一帯	主要山地 主要河川	<ul style="list-style-type: none"> 原生的な天然林であり、スダジイ林が優占し、低地の谷筋にはオキナワウラジロガシ林が生育するなど、亜熱帯降雨林帯の代表的な植生である。 テドウ山から波照間森、御座岳にかけては雲霧帯が、浦内川中流域には渓流帯が発達し、国や沖縄県の RDB に記載されている希少な動植物が生息・生育している。 自然景観にも優れ、カンピレーの滝、マリユドウの滝及びそれらの周辺は自然休養林に設定している。 	保全利用地区	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育やレクリエーションの場を除き保存地区 環境教育やレクリエーションの場は保全利用地区

番号	エリア	区分	評価	現在の区分	見直し案
	西田川、ヒナイ川及びマーレ川一帯	中小河川	<ul style="list-style-type: none"> ・船浦湾には大小3つの河川が流入し、マングローブ林がよく発達している。また、イタジイ、オキナワウラジログシ、ヤエヤマヤシをはじめとする亜熱帯性の植物が多い。 ・船浦湾の湿地や流入河川には、国や沖縄県のRDBに記載されている甲殻類や底生動物が多数生息している。 ・船浦湾周辺の河川沿いでは、イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 ・自然景観にも優れ、3河川の下流域を中心として自然休養林を設定している。 	-	保全利用地区
	浦内川河口周辺	主要河川	<ul style="list-style-type: none"> ・干立集落の後側から浦内川河口に発達するマングローブ林と干立御岳のヤエヤマヤシの自生地からなる星立天然保護区域があるなど、集落の近くに貴重な自然環境が残されている。 ・浦内川河口の低地部のほか、祖納岳からウシク森にかけての山地帯でも、イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	-	保全利用地区
	ウシク森～波照間森、分収造林地	主要山地 造林地	<ul style="list-style-type: none"> ・ウシク森から波照間森にかけては雲霧帯が発達し、希少な動植物が生息・生育している。 ・分収造林地は広葉樹の侵入により二次林化が進んでおり、常緑広葉樹の天然林と同等の種の多様性を有する。 ・イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	-	保全利用地区 ただし、分収造林地及びその周辺を除く

番号	エリア	区分	評 価	現在の区分	見直し案
	仲良川、ヒドリ川及びクイラ川一帯	中小河川 山地 造林地	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドリ川及びクイラ川一帯は、既設の保存地区と同等の林齢で140年生を越えており、また、イノシシ猟以外での林内への立入はほとんどなく、自然度が高い状態が保たれている。 ・仲良川及びクイラ川は、浦内川、仲間川に次ぐ流域面積があり、マングローブ林が発達している。 ・仲良川には溪流帯が発達し、国や沖縄県のRDBに記載されている希少な動植物が生息・生育している。 ・仲良川一帯に広がる分収造林地は広葉樹の侵入により二次林化が進んでおり、原始的な天然林と同等の種の多様性を有する。 ・クイラ川沿いではイリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ猟が行われている箇所等を除き保存地区 ・イノシシ猟が行われている箇所等は保全利用地区 <p>ただし、分収造林地及びその周辺を除く</p>
	崎山半島	半島 中小河川 海岸 造林地	<ul style="list-style-type: none"> ・崎山半島には、船浮集落以外の集落のほか、道路等の人工物もなく、イノシシ猟以外の林内への立入はほとんどない。さらに、海域はアオウミガメが多く生息し、網取湾と崎山湾には多様な種のサンゴやウミシヨウブ等の群落が分布し、陸域、海域ともに自然度が高い。 ・保護地域設定後約20年が経過し、海岸部の一部森林を除き、既に林齢が100年生を越えている。 ・網取湾に流入するアヤンダ川とウダラ川には、マングローブ林が発達しており、「日本の重要湿地500」にも選定されている。 ・イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ猟が行われている箇所等を除き保存地区とし、半島の中心部から海岸までを広範囲に確保 ・イノシシ猟が行われている箇所等は保全利用地区 <p>ただし、分収造林地及びその周辺を除く</p>

番号	エリア	区分	評 価	現在の区分	見直し案
	南風岸岳一帯、南岸、南風見地区	主要山地海岸	<ul style="list-style-type: none"> ・南風岸岳一帯の森林は、既設の保存地区と同等の林齢 140 年生を越えている。また、南岸沿い及び南風見地区の森林も保護地域設定後約 20 年が経過し、既に林齢が 100 年生を越えている。 ・南風岸岳一帯はスダジイの優占する原生的な天然林である。また、南岸には風衝地に発達する自然植生が広がっている。さらに、南風見地区にはハスノハギリが優占する海岸林がある。いずれも学術的に貴重な植物群落である。 ・南風見地区では、イリオモテヤマネコ、カンムリワシ等国内希少野生動物種が生息している。 ・南岸は、急な崖が道路等に遮られることなく、直接海につながっており、また、砂浜がアオウミガメの産卵地となっており、海域を含め国立公園第 2 種特別地域に指定されている。 	南風岸岳一帯は保全利用地区	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ猟が行われている箇所等を除き保存地区とし、御座岳及び仲間川流域から海岸までの連続性を確保 ・イノシシ猟が行われている箇所等は保全利用地区
	仲間川一帯	主要河川	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間川の河口から中流部にかけての河岸には我が国最大規模のマングロブ林が広がり、国や沖縄県の RDB に記載されている甲殻類や底生動物も多数生息している。 ・仲間山一帯は原生的な天然林で、亜熱帯性常緑広葉樹林が分布している。 ・仲間川の上中流部には溪流帯が発達し、希少な植物が生育している。 ・イリオモテヤマネコ、カンムリワシ等国内希少野生動物種が生息している。 	保全利用地区（仲間川天然保護区域等は保存地区）	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ猟が行われている箇所等を除き保存地区 ・イノシシ猟が行われている箇所等は保全利用地区

番号	エリア	区分	評 価	現在の区分	見直し案
	前良川一帯、 大正池、大富 地区	中小河川 沼	<ul style="list-style-type: none"> ・前良川一帯と大富地区は、林齢が100年生を越えている。 ・大正池は、ミナミトンボ等希少な動植物の生息地であるとともに、渡り鳥等の貴重な休憩場所となっており、「日本の重要湿地500」にも選定されている。 ・イリオモテヤマネコの生息が確認されている。 	-	保全利用地区